

県高校総体の代替大会は七月一八日、一九日エコパスタジアムで開催された。女子やり投げで田畑美羽（磐田農）が48m73、男子走高跳は太田 蒼翔（浜松市立）が2m14、男子ハンマー投で鈴木潤彦（浜





# 静岡 陸協 会報

第 28 号 (2020年 9月 25日 発行)  
一般財団法人  
静岡陸上競技協会  
〒420-0836  
静岡市葵区東町15  
TEL・FAX 054-253-9801



**高三生に最後のステージを**  
目標を突然奪われ、失意にあった高校生、特に三年生に、努力の成果を発揮する場が用意されることになった。多くの先生方、審判員の方々のおかげで、制約の多い環境下であったが、感染防止に注意しながら開催することができた。コロナ禍によって高校生は人知を超えた脅威の存在や助け合いの大切さなど多くのことを学んだ。

松北) が62m48、共に大会新記録で制した。大会を締めくくる男子一六〇〇メートルリレーは磐田北が3分12秒92の大会新記録で優勝した

**高三女子**

六月中旬になってやっとスパイクを履くことができました。気が引き締められました。調子は良くなって決勝には進めなかったけれど、自分なりに区切りは付けました。「すっきりした」と、「もう終わりか」って寂しい気持ちにもなりました。

**高校生の声**



**高三男子**

高三としては、普通ならもう引退している時期。他の部活は代替大会があっても三年は出ないと決め、引退して受験勉強に切り替えている人がたくさんいます。友達から「陸上部、七月までやるの?」「大丈夫なの?」と言われることもありました。

**高三女子**

生きている中でそうそうない、異例の一年になるであろう、私たち高三にとつての二〇二〇夏でした。私たちの代でしかできない、特別で思い出に残るラストをつくるため、やる気MAXで大会に臨みました。





静岡陸上競技協会会長  
北澤晴樹

### 「高校生の夢のために」

二〇二〇年。輝かしい年になるはずだった。二月までは…

二月二〇日静岡マラソン中止。  
待ちに待った東京オリンピックも三月二四日、延期決定。

そして、四月二六日史上初めてインターハイが中止に。

僅か数か月で陸上のビッグイベントが中止、延期に追い込まれた。

新型コロナウイルスの影響はいつまで続くのだろうか。

今年には逆な意味での歴史的な年になってしまった。

二〇二〇年インターハイは東京オリンピックの影響で担当の北関東エリアでの開催が厳しくなり史上初の分散開催となった。中でも陸上競技は参加選手・観客動員数など群を抜いており当初は四七都道府県のどこも引き受け手が見つからなかった。

「このままでは高校生の夢の舞台が消えてしまう」と危機感を持った一人の高校教師から相談を受けたのは二年前の三月だった。教師の熱い気持ちに動かされたもののいくつもの高いハードルが立ちただかっていた。一億円近い費用・運営する組織・二年余りしかない時間・オリ

ンピックとパラリンピックの間隙を縫って行わなければならないスケジュール。難問は山積した。しかし、「高校生の夢のために」とのキーワードは行政も協賛社も関係者すべての心を動かした。そして最終的に財政のめどが立ったのは新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた今年の三月末だった。そして四月二六日の中止決定、開催に向けて走り回っていた関係者は脱力感に襲われた。

静岡国際陸上を初めとする陸上競技大会の相次ぐ中止、日本陸連の要請もあり六月一杯は集団での練習もままならなかった。

そうした中で七月一八、一九日に静岡県高校陸上対校選手権・インターハイの代替大会が開催された。折しも梅雨の真っ最中、初日は大雨に見舞われたが大

会開始とともに雨が上がった。翌日も天気予報に反して晴。参加した選手たちは「高校生の夢の舞台」で練習の成果と思いのたけをぶっつけていた。大会新記録も四種目であり、中でも男子四×四〇〇mリレーでは磐田北チームが3分12秒92で一〇年ぶりに大会新記録を出して優勝した。

念願の全国大会はできなかつたが参加した高校生の表情は明るかつたと思う。関係者の皆様の努力に改めて感謝したい。



### 二〇二〇年度 静岡陸上競技協会顕彰受賞者

#### 功労者表彰

- 土屋 洋治 東部
- 望月 正美 東部
- 内野 悦子 中部
- 孕石 英男 中部
- 梅林 弘 西部
- 山下 恭弘 西部

#### 日本記録樹立者表彰

- 川野 将虎 (東洋大)
- 男子五〇km競歩 3時間36分45秒
- 日本新記録

#### 優秀選手表彰

- 中津川亜月 (浜松市立高) 走幅跳 6m 22優勝
- 国民体育大会少年女子A
- 少年女子共通三段跳 12m 79 優勝
- 秋山 愛莉 (城南静岡高)
- 全国高校 女子砲丸投 14m 94 優勝
- 仲子 綾乃 (浜松西高) 女子八〇〇m 2分09秒60 優勝
- U一八日本選手権 女子八〇〇m
- 内山 響香 (浜松市立高) 国民体育大会少年女子B 一〇〇m 12秒12 優勝
- 松尾 瑚捺 (浜松商業高) 国民体育大会少年女子B 走り幅跳 5m 89 優勝
- 足立 侑汰 (静岡高) 全国高校定通制男子砲丸投 11m 94 優勝
- 杉森 心音 (浜松北浜中)



- 全国中学女子共通一五〇〇m 4分23秒47 優勝

- 斉藤 涼馬 (吉田中)
- 田村 莉樹 (吉田中)
- 内屋 翔太 (吉田中)
- 大石 凌功 (吉田中)
- 全国中学男子四×一〇〇m R 42秒25 優勝

#### 日本陸上競技連盟二〇一九年度中学生・高校生優秀選手賞

- 【中学生】 杉森 心音 (浜松北浜中)
- 【高校生】 中津川亜月 (浜松市立高)

# 都道府県対抗駅伝の強化について

大石 富之

都道府県対抗男女駅伝におけるここ数年の結果をみると明らかに良くなっている。男子は二〇一六年、一七年、二〇年と入賞し、女子においても二〇一二年の第三〇回大会以降入賞五回という結果を残している。

要因はいくつか考えられるが、中学生の全国上位選手が毎年のように出現することはもちろんのこと、大学、社会人の充実が大きい。距離が長く勝敗に大きく関わってくるからだ。昨年の男子においても最終区の伊藤達彦選手（浜松商出身）の六人抜きがあり、五位入賞を果たすことができた。

箱根駅伝では、ここ数年静岡県内高校出身選手が千葉県に続き二番目に多く出場している。その上位一〇人の一〇〇〇〇mの平均タイムは28分50秒で前年優勝の東海大学とほぼ同じである。また二〇一四年の千葉国際駅伝では、日本代表として出場した大石港与（富士東出身）萩原歩美（常葉大菊川出身）の両選手がケニアを逆転し優勝に貢献した。他にも全日本実業団ハーフマラソン優勝やタインズ駅伝区間賞など、最近の活躍はめざましい。これは県内高校の指導者が選手の可能性を十分発揮させるための細やかな気遣いと指導の賜と思う。加えて地元実業団スズキアスリートクラブの選手、スタッフの後押しや協力も大き



い。今後、優勝を目標にするには課題も多い。第一は高校生の強化である。優勝するには高校生の活躍が不可欠になってくる。しかし強化策を考える前に深刻な構造的な問題がある。都道府県対抗代表になり活躍した中学生が他県に流出してしまう事だ。日本では学制により中学、高校に分断され、それぞれのステータスでチャンピオンを目指すという問題がある。それに伴って練習過多や不正行為（鉄材注射など）が生じ大切な逸材をつぶしてしまうようなことが最近では問題となっている。都道府県対抗が、分断された横割りのステータスから中・高・社会人を縦に繋げられる役割を果たせたら、育成・強化がより良い方向に向けられ、静岡県からより多く日本を代表する選手を輩出し、男女の都道府県対抗においても優勝を目指すチームに成長することが現実となってくる。

## 飯塚選手インタビュー

今シーズン初戦です

小学校の時から走っている草薙で走れたことはうれしいですね。地元はいいですね。中高生の後輩たちから「がんばれ！」が力になりました。

二種目大会新！

弟の持つ大会記録を意識していました。「破ってやろう！」という気持ちでできました。二人と一緒に試合にできることはあまりないので、とてもよい記念になりました。

コロナ自粛中は？

四継のライバルたちとSNSで連絡を取り合っていました。それでモチベーションを保てたと思います。来年の東京はもう始まっています。とにかくアピルする一年にしないと！

久しぶりの静岡

静岡といえばうなぎですね！帰ってきてすぐにうなぎを食べました。今日いい走りができたのもうなぎパワーですかね笑。





# チーム紹介

## 東海大学翔洋高等学校 陸上競技部

菅間友一先生

陸上らしくない指導  
翔洋にきて一七年目になります。一七



年間指導のスタイルは変えていません。自分のスタイルは人と違うと思うんですよね。うーん、陸上らしくない陸上というか。

もともと自分が十種競技出身なので、短距離、長距離と分けて考えていません。まずは身体能力を上げていくことを一番に考えます。スピードとパワーをベースにして、技術をつけていくという感じでしょうか。

### 選手を一番に考える

一番覚えていっているのは二〇〇九年の県総体です。女子一〇〇で優勝した選手が、次に出たリレーで怪我をしてしまいました。その時以来、選手を大事にすることを一番に考えています。しっかりとコミュニケーションをとり、練習させすぎないこと。怪我をさせないように気を付けています。

### リレーで全国優勝を！

就任当初は、静岡で短距離はムリだっ



て言われたんです笑。しかし、その時から目標は全国総合優勝です！そのためにはやはりリレーで勝つことが大事です。リレーで勝つとチーム力が上がります。リレーがチームの軸になります。

### 三年 高村 颯大君

専門は走り幅跳びです。陸上は幼稚園の頃、親がコーチをしている東伊豆のクラブで始めました。翔洋にきて、正直つらい面もありました。周りのレベルが高く、はじめは焦りましたが、自分なりに成長できたと思います。一番の思い出は御殿場でやった冬合宿ですね。きつかったです。三〇〇m×四〇本やりました！先生はオニだと思いました笑。今後は7

m30以上を目指してがんばります！

### 三年 室月 里莉花さん

専門は二〇〇と四〇〇です。私は小学校一年の時、兄と一緒に陸上を始めました。今年はインターハイがなくなっていて、最初は本当に目の前が真っ暗になってしまいました。ですが、代替大会では、四継もマイルも両方県一位になることができて、本当にうれしかったです。休校中は各自で練習し、会えた時にバトン合わせをしました。秋の全国大会で、個人、リレーともがんばります！



### 〔編集〕

静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局

水谷陽介（編集・文責）

橋本美智夫（編集委員）

（印刷・大日三協株）